

〈シリーズ企画〉

# 神谷傳兵衛 没後100年

最終回

## 傳兵衛が後世に継ぐもの

### 生涯を通して数多くの文化事業や慈善事業に 精力的に取り組み、多くの寄附を行う



傳兵衛は、大きな災害が起こるたびにただちに救済活動を行い、羅災窮民のために金穀や衣類、農具を支給したといえます。また教育や神社仏閣、社会公益事業への関心も高く、生涯を通して多くの寄附をしました。

明治37年に日露戦争が開戦し、国が巨額の軍費を必要とみると、傳兵衛は長年苦心して集めた貴金属品を借しげもなく、悉く国に献納。また、明治38年からは中国の美術品や骨董品のコレクションを始め、清朝皇族が秘蔵していた美術品をすべて買収し、東京向島の別荘に保存しました。美術品をコレクションした目的は、ただ自分で楽しむためではなく、改築した浅草の神谷バーに美術館を開設し、多くの人たちに鑑賞して欲しいと考えていたためといわれています。その後、ヨーロッパで第1次世界大戦が開戦した影響で日本の経済界は好景気となり、華族や富豪が美術品や骨董品を高値で続々と手放し、巨額の利益を得るものがあるなか、傳兵衛は売却の依頼もす



べて断り、コレクションを続けていました。しかし、美術品や骨董品を保有し続け、神谷家の子孫に遺すことになれば、必ず悪影響になると考えるようになった傳兵衛は、東京帝室博物館(現東京国立博物館)に全て寄附することを決意します。傳兵衛の意向を受け、東京帝室博物館による調査が神谷家で行われ、大正8年3月15日、傳兵衛が長年コレクションしてきた古銅器類148点、七宝器類68点、玉石水晶器類197点、堆朱器類109点、陶磁器類108点など合計668点を献納しました。牛久シャトーにはその際に製作された目録が残されており、受領者として当時の東京帝室博物館館長の文学博士・医学博士である森林太郎(森鷗外)の名前が記されています。献納された美術品は現在も東京国立博物館に収蔵され、一部は常設展示されているため普段でも見る事ができます。

傳兵衛は個人で美術館を開設することはできませんでしたが、国に献納することで貴重な美術品が散逸することがありませんでした。100年後の私たちが鑑賞する機会を得られるのも、傳兵衛の先見の明に他ならないのです。

問 文化芸術課(牛久シャトー内) ☎874-3121

### うしくっ子 アルバム

## おかほいくえんとも つつじが丘保育園のお友だち

げんき えんす げんき えんす ようす しょうかい  
元気に園で過ごしているみんなの様子を紹介します♪



ぞう組

好きな洋服を着て、ハロウィンパーティーをしました。



ぞう組

みんなでお化け屋敷ごっこを楽しみました。



きりん組

発表会にむけて、缶太鼓を夢中になって練習しています。



うさぎ組

お友だちと一緒にブロック遊びを楽しんでいます。